

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神崎市立脊振小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の交流活動、交流授業については、コロナ禍の中でも状況に応じて、実施することができた。来年度は、共通の研究主題を設定し、ベクトルを揃えて、9年間の成長を見据えた学力向上を目指したい。 ・児童が支え合いの中で安心して学校生活を送ったり、困った時は家庭や学校の誰かを頼ったりすることができていた。引き続き、お互いの人格を尊重する指導を行い、支持的風土作りを推進したい。 ・地域・社会と連携し、様々な体験活動を通して、故郷を大切に、生き方を再考する機会を引き続き持たせ、自ら考えて行動する児童を育成したい。
2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①安心して学べる場を確保し、子ども・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 ②教職員の意識改革と効率的な自己研鑽を推進し、指導力と人間性の向上を図る。 ③「知、徳、体」の調和のとれた生き抜く力を備えた子どもを育成する。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			中間評価	5 最終評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	達成度(評価)		
●学力的向上	●全職員による共通理解と共通実践(校内研・授業改善・読書の習慣化)	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●教師の技により対話的な学びの場を充実させ、児童の学びの深まりを図る。 ●児童による授業の評価を取り入れ、授業改善に生かす。 ●授業時間外の図書室利用の促進と、読書がんびり週間を設定する。	B	A	研究主任 研究副主任 図書館教育主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動(人権・同和教育・道徳)	○神崎市の「四か条の誓い」や脊振小の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	●人権集会の実施 ●全校で「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に取り組み、定期的な人権担当からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ●「特別の教科 道徳」についての校内研修等を行う。	B	A	人権・同和教育主任 道徳科主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実(生徒指導・教育相談)	○いじめ防止等について組織的対応ができていますと回答した教員90%以上	●日常の観察や定期的な個人面談、アンケートを行い、児童の実態把握に努める。 ●把握した情報は、記録用紙に記録し、学校所定の記録簿に綴る。また、職員連絡会、生徒指導・教育相談連絡協議会等で共通理解を図り、職員全体で対応する。	A	A	生徒指導主任 教育相談主任
●心の教育	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動(キャリア教育・総合・生活科・体験活動)	○「将来の夢や目標」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)80%以上 ○地域の人のふれあいについてのアンケートで肯定的回答の児童90%以上	●地域や社会の様々な人と出会う場を設け、思いやりの心を知ること、学ぶことや働くことの意義を考えさせる。 ●児童に活動や学びの振り返り及びより充実させる方策を考えさせる活動を仕組む。	A	A	総合的な学習主任 生活科主任 縦割り班担当
	●「運動習慣の改善や定着化」(体育)	●全校の80%が、自主的に休み時間を使って運動する。	●体育委員会を中心に、スポーツイベントを開催する。その際に、運動や遊びを推奨する声かけも行う。 ●運動や遊びができる環境を整備する。	A	A	体育科主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」(保健)	●給食後の歯みがき実施率100%を維持し、家庭での食後の歯みがき実施率80%以上	●給食後の歯みがき指導を継続し、家庭での習慣化につながるよう保護者への啓発を行う。	A	A	養護教諭
	●「安全に関する資質・能力の育成」(安全・防災)	●非常時の避難の仕方を理解し、避難訓練において安全に避難できる児童100%	●避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。	A	A	安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を意識できた教職員80%以上	●タイムマネジメント力を高めるために、職員が毎日、退勤予定時刻を決めて効率的に勤務にあたる。 ●業務内容について職員で話し合っ整理し、スリム化を図る。	B	A	教頭・校長
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目						
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	達成度(評価)	主な担当者
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○チーム脊振のメンバーを増やし、1年間の中で全学年と交流の機会をもつ。	●ホームページのイベントギャラリーで地域連携教育活動の広報に力を入れ、チーム脊振の充実を図る。	A	A	教頭・校長
○小中連携教育の充実	○9年間を見通した小中連携教育の推進	○中学生または中学校教諭との交流活動についてのアンケートで肯定的回答90%以上	●小中合同の交流活動、交流授業を年間10回以上実施。	A	A	教務
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上(特別支援教育)	○特別支援に関する専門性が向上した教員90%以上	●特別支援に関する研修会の実施 ●医療機関と連携したケース会議の開催、情報共有	A	A	特別支援教育担当
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育						
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の研究主題を設定し、9年間の成長を見据えた学力向上を目指した。来年度も小中合同の交流活動、交流授業を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に取り組んでいきたい。 ・児童が落ち着いて行動したり、友だちと助け合って生活したりすることができていた。引き続き、安心して学校生活を送ることができるような、支持的でお互いを大切にする風土作りを推進したい。 ・コロナ禍でも方策を探り、地域・社会と連携した体験活動を行うことができた。故郷を大切に、生き方を再考する機会を引き続き持たせ、自ら考えて行動する児童を育成したい。 					